

平成22年度 厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金 報告書（要旨）
外来種キタアメリカフジツボの厚岸沿岸における侵入経過と在来群集への影響の解明

深谷肇一¹，奥田武弘²，野田隆史³

¹北海道大学大学院環境科学院

²遠洋水産研究所

³北海道大学大学院地球環境科学研究院

キタアメリカフジツボ (*Balanus glandula*) は北米太平洋沿岸（アラスカ～カリフォルニア沿岸）が原産の、潮間帯に優占するフジツボである。もともと日本には生息していなかったが、2000年に外来種として三陸地方沿岸で初めて発見され、その後東北から北海道にかけて分布を急激に拡大し、潮間帯群集の構造に大きな影響を及ぼし始めている。本種は近年厚岸沿岸でも生息が確認されており、これまでの侵入の過程と現在の分布を明らかにすることは、今後の道東、さらには他地域への分布拡大過程の予測と、在来の潮間帯群集に及ぼす影響を明らかにする上で重要であると考えられる。そこで本研究では、道東沿岸におけるキタアメリカフジツボの現在の分布と侵入過程を明らかにすることを目的に、1) 道東沿岸における現在のキタアメリカフジツボの分布状況、2) キタアメリカフジツボの分布拡大過程を、広域・局所スケールで検証した。主な結果は以下のとおりである。

1. 道東地域での現在の分布：広域スケール 2010年に調査を行った26ヶ所の岩礁海岸のすべてにおいて、キタアメリカフジツボの分布が確認され、本種は釧路から落石にかけての広い範囲ですでに分布を拡大していることが明らかとなった。
2. 道東地域での現在の分布：局所スケール 2010年に調査を行った9ヶ所の岩礁海岸における海岸内の平均被度は0から18.1%であり、局所的な被度は現在のところ低い水準であることが明らかとなった。
3. 分布拡大の推移：広域スケール 2002年から2010年にかけて継続調査が行われている5カ所の海岸における存否データの解析から、キタアメリカフジツボは2006年に初めて観察されたのち、2010年までに急激な分布拡大が起こってきたことが明らかとなった。
4. 分布拡大の推移：局所スケール 2002年から2010年にかけて継続調査が行われている5カ所の海岸における被度データの解析から、2010年になって被度の急激な増加が起こっていることが明らかとなった。

これらの結果は、道東地方へのキタアメリカフジツボの侵入は急激に進んでいるがまだ途上であることを示唆している。今後、本種の被度がさらに増加することになれば在来の潮間帯群集に大きな影響を及ぼす可能性があり、キタアメリカフジツボの増加が在来群集へ及ぼす影響を明らかにする必要がある。